

教育指導課便り

～つながり合い、共に学びをはぐくむために～

函館市教育委員会
学校教育指導課
平成24年5月18日発行
VOL. 2

外国語活動担当者会議報告

4月16日(月)、南北海道教育センターにて、外国語活動サポーター委嘱状交付式および外国語活動担当者会議を開催しました。今年度も、12名(新規3名)のサポーターが担当の小学校へ訪問します。

外国語活動担当者会議では、昨年度の成果や課題を確認し、より効果的なサポーターの活用方法や、打ち合わせの時間の確保、効率のよい配置時間の設定などについてお話ししました。

子どもたちが楽しく、積極的に外国語活動に取り組めるよう、サポーターの有効活用をお願いします。



研究モデル校連絡協議会報告

4月24日(火)、南北海道教育センターを会場に、本協議会を開催しました。昨年度のモデル校事業の成果や、本年度の取組の方向性等について説明、協議を行いました。本年度の研究モデル校は次の5校です。

学力向上	・鍛伸小 ・深海中(H23~H24) ・えさん小 ・恵山中(H24~H25)
外国語活動	・日新小(H24)

また、アプローチに基づく本年度の研究のポイントとして次の点を提示しました。

- 組織的な校内研究方法の検証・発信
- 学校・家庭の連続性による授業の検証・発信
- 外国語活動における効果的な指導方法、指導体制の発信

各学校における校内研究の構想の際にも配慮願います。

コラム：教育課程(②)

○ (VOL. 1からの続き) 教育課程を編成する上で、参考にすべき資料は多々ありますが、とりわけ、函館市で策定した義務教育基本計画は、函館の子どもたちの様子をとらえ、函館市全体として「このような視点で、教育を進めていきましょう」という基盤ですから、市内の各学校が特色のある教育課程の編成を行う上で、不可欠なものとなります。ただし、基本計画は大枠を示しているため、具体的にどのようなことを重点としていくのかは毎年度に発行される「アプローチ」でお示ししています。アプローチには、「今年度、市全体としてこのような方向で進みましょう」という「指針」を具体的に記載していますことから、各学校独自の課題と、アプローチで取り上げられている重点項目を見比べた上で、編成を行っていくことが大切です。

※平成24年度版アプローチは教育指導課のWebページからもダウンロードできます。

コラム：特別支援教育(①)

特別支援教育を進めるにあたり、対象となる児童生徒への支援を充実させるには学校全体として「組織的・継続的な取組」を推進することが重要になります。例えば、特別支援教育コーディネーターが窓口となり、学年等で話し合うとともに、必要に応じて校内委員会に報告しながら、つぎのような、チームによる指導・支援が考えられます。

- 個別の対応が必要な場合は、TTによる授業の実施や、特別支援教育支援員と連携した支援・指導を行うことも考えられます。
- 通常学級の一斉授業で個別の対応が難しい場合は、放課後の学習サポートの機会の活用も考えられます。
- 学校に特別支援学級や通級指導教室がある場合は、教育相談を実施したり教育的ニーズのある児童生徒の専門的なアセスメントや指導・支援等を実施したりするなどの活用が考えられます。

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校における特別視教育推進のためのQ&A」

平成19年7月北海道教育委員会 学校教育局特別支援教育課 より